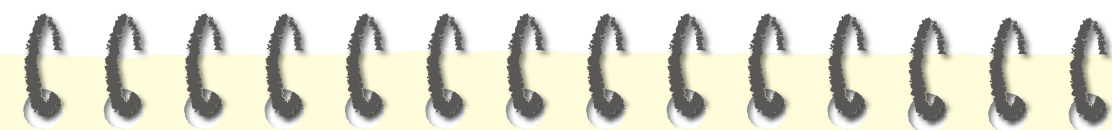




OTの私が挨拶をすると「こんにちは！」と明るく元気に返してくれた安義さんの病室には、動物の絵やフェルトを使ったアート作品が壁一面に飾ってありました。そんな安義さんに、興味のある自分らしい活動を継続してもらいたいと絵画を勧めると、とても喜んだ表情ですぐに絵を描きはじめました。安義さんの作品は、斬新かつ独創的な表現方法で、一度見ると脳裏に焼きつく、忘れられないものでした。多数の線を敷き詰め、動物の模様を描くところが特徴的で、目は丸く、どこことなく愛嬌のある温かい表情から、安義さんの人柄が伝わってきます。リハ開始当初は、集中して活動に取り組んでいましたが、徐々に傾眠することが増え、その約2カ月後永眠されました。今ごろ大好きな絵をたくさん描いていることと思います。(担当 OT: 山口良介)



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



村川吉美「熊野古道～那智の滝～」

東京駅から新幹線ひかりで名古屋まで行き、観光バスに乗り換え和歌山県に至る。世界遺産「熊野那智大社」でお参りし、樹齢千年の老杉を観光。町会の人々と1日での強行スケジュール。その途中、山道を上った先に先に現れたのが「熊野古道那智の滝」。眼前に現れた神聖な滝の姿に、心から感動したのを今でも鮮明に覚えています。この病気になり、以前のように歩くことは難しいかもしれませんが、「ぜひ、また行きたい！」という思いを込めてつくりました。